

## 第四十節の秘史 - その四

### 試練と勝利：獣の像の形成と賢い者の封印

Jeff Pippenger

2024-09-23

アメリカ合衆国における獣の像の形成によって表される試験を示す預言の線は、憲法の線を表す三つの道標と並行している。

それらは互いに並行しており、もう一方の線に関わる特定の情報を提供している。アメリカ合衆国における日曜法令から始まる迫害の時に、獣の像の試験を通過した者たちは、どのようにして神の御座から出る光のうちを歩む備えができるのか。アメリカ合衆国のその日曜法令から始まる迫害の期間、国家的背教に続いて国家的破滅が起こり、サタンがその驚くべき業を開始する時に、その期間を乗り越えていくことを可能にする経験のうちに賢い乙女たちを封印するのは、獣の像の形成という試験の何であるのか。

「天の栄光と過去の迫害の繰り返しと交錯するとき、地上に生きる神の民がどのような経験をするかを言い表すことは不可能である。彼らは神の御座から発する光の中を歩むであろう。天使を通して、天と地の間には絶え間ない交わりが保たれる。そして、悪天使に囲まれ、自らを神と称するサタンは、できることなら選民でさえも欺くために、あらゆる種類の奇跡を行うであろう。」『証言』第9巻、16ページ。

ホワイト夫人は、ヨハネ6章に記録されている、カペナウムの会堂でキリストが語られたメッセージについて注解している。彼女の注解は、『The Desire of Ages』の「The Crisis in Galilee」と題する章にある。そこで彼女は、キリストはヨハネ6章で起こった離反を食い止めるために何の手立ても講じられなかったことを強調している。彼は、ご自身の地上での宣教のどの時よりもそのときに多くの弟子を失うことを十分承知しておられたにもかかわらず、そのようになさったのである。

イエスは、多くの弟子たちが背を向けることになった、彼らを試す真理を示されたとき、ご自身の言葉がどのような結果をもたらすかを知っておられた。しかし、果たすべき憐れみの目的があった。彼は、誘惑の時に、愛する弟子たち一人ひとりが厳しく試されることを予見しておられた。ゲッセマネでの苦悶、裏切り、そして十字架刑は、彼らにとってこの上なく苛烈な試練となるはずであった。もし前もって試練が与えられていなかったなら、ただ利己的な動機に動かされる多くの者が、彼らの仲間に加わっていたであろう。彼らの主が裁きの場で有罪を宣告され、かつて彼を王として迎えた群衆が今や彼に向かって嘲りの声を浴びせ、罵倒し、嘲る群衆が「彼を十字架につけよ！」と叫び、彼らのこの世的な野望が打ち砕かれたとき、こうした自己本位の者たちは、イエスへの忠誠を放棄することによって、最も大切にしてきた希望が潰えたことによる悲嘆と失望に加えて、弟子たちに苦く、心に重くのしかかる悲しみを負わせることになったであろう。その暗闇の時には、彼から離れた者たちの例に引きずられて、他の者たちまでも離れていってしまったかもしれない。だがイエスは、ご自身がなお臨在して真の弟子たちの信仰を強めることのできる間に、この危機をもたらされたのである。

憐れみ深い贖い主よ、ご自分を待ち受ける破滅を十分に知っておられながら、なお弟子たちのためにやさしく道をならし、彼らをその頂点の試練に備え、最後の試練に備えて彼らを強められた方よ！ 『The Desire of Ages』、394.

日曜法は、品性が現れる最終試験である。最終試験に先立って、決して変わらないキリストは、ご自分の民の永遠の運命が決せられる試験をお許しになる。それは、彼らが封印を受ける前、また日曜法の時に彼らの恩恵期間が閉じる前に、彼らが合格しなければならぬ試験である。それは、賢い乙女たちを「彼女たちの冠となる試練のために備え、最終試験のために強める！」預言的な試験である。彼女たちの「冠となる試練」は、彼女たちの冠となる試験である。なぜなら賢い乙女たちは、「清められ、白くされ、試みられた」者たちだからである。最終試験こそ彼女たちの冠となる試練であり、その試みの時に、賢い乙女たちは「神の御座から出る光の中を歩むであろう」。では、賢い乙女たちを冠となる試練に備え、神の御座から出る光の中を歩ませることを可能にする、その試験過程のうちにあつて「獣の像の形成」として表されているものとは何であろうか。神の御座から出る光とは何であろうか。

そして彼が第七の封印を開いたとき、天には半時間ほどの静けさがあつた。私は、神の御前に立っている七人の御使いを見た。彼らには七つのラッパが与えられた。また、別の御使いが金の香炉を持って祭壇のところに来て立つた。彼に多くの香が与えられ、それを、御座の前にある金の祭壇の上で、すべての聖徒たちの祈りとともにささげるためであつた。そして、聖徒たちの祈りと共にあるその香の煙は、御使いの手から神の御前へと立ちのぼつた。そして御使いは香炉を取り、祭壇の火でそれを満たし、地に投げつけた。すると、声と雷鳴と稲妻と地震が起こつた。黙示録 8:1-5.

終わりの日々、十人の乙女のたとえが成就しつつあり、十四万四千人に印が押されている時期に、第七の封印が解かれ、聖徒たちの祈りへの答えとして火が地に投げ込まれることが示される。十人の乙女のたとえが最終的かつ完全に成就する際に投げ下ろされるその火とは、「真夜中の叫び」のメッセージであり、エクセターのキャンプ集会における聖霊の注ぎ、ならびにそこで火として表された五旬節の聖霊の注ぎによって象徴されている。「真夜中の叫び」のメッセージに関するホワイト姉妹の論評に注目しなさい。

「第一のメッセージを退けた者たちは、第二のメッセージから益を受けることができなかった。天の聖所の至聖所に、信仰によってイエスとともに入る備えをさせるはずの真夜中の叫びからも、彼らはまた益を受けなかった。そして以前の二つのメッセージを拒んだことによって、彼らの理解はそこまで暗くなり、至聖所への道を示す第三天使のメッセージのうちに何の光も見いだせなくなった。私は見た。ユダヤ人がイエスを十字架につけたように、名ばかりの教会はこれらのメッセージを十字架につけてしまった。ゆえに彼らは至聖所への道を知ることがなく、そこでのイエスの執り成しによって益を受けることもできない。無益な犠牲をささげたユダヤ人のように、彼らはイエスが去られた部屋に無益な祈りをささげる。そして、欺きに満足したサタンは宗教的な装いをして、クリスチャンであると公言するこれらの者たちの心を自分に向けさせ、彼の力とするしと偽りの不思議をもって働き、彼らを自らの罠に絡め取る。」  
『初期の著作』、259-261.

ミラー派の歴史において、「真夜中の叫び」のメッセージの試練は、「信仰によってイエスとともに天の聖所の至聖所に入る備えをさせること」であった。現在展開しつつある「真夜中の叫び」のメッセージも、獣の像の形成をめぐる試練として表されている。どちらも、品性が現れる猶予期間の終わりへと導く試練である。ミラー派が信仰によって至聖所に入ったとき、彼らの信仰は再び試された。十四万四千人の信仰は日曜法で試されるが、彼らは安全であると約束されている。なぜなら、彼らは、2023年7月に「真夜中の叫び」のメッセージが封印を解かれ始めたときに開かれた第七の封印から「出る光の中を」歩むからである。

その時に封印が解かれたメッセージは、「行に行を重ねる」という方法論、すなわち後の雨の方法論によって確立されている。後の雨は2001年に降り始め、アドベンチズムに対する最終的な試練が始まった。2023年7月、「真夜中の叫び」のメッセージが始まったとき、日曜法令で終結する試練の過程の最終期間が始まった。このメッセージは後の雨であり、また第七の封印が取り除かれるときにもたらされる知識の増加であり、七つの雷の封印が解かれること、さらにイエス・キリストの啓示でもある。預言的な光の解封を表すすべてのラインは、ダニエル書11章40節の隠された歴史の中で解封されたものとして特定されている。

その隠された歴史の中に、合衆国憲法の三つの主要な道標を示す線が表されている。それは、教会と国家が結びついて獣の像を形成する時の線である。そこには、アメリカ合衆国の大統領に言及する預言的な線が含まれており、地の獣の共和主義の角の歴史において起こる政治闘争の力学を示している。その線には、アメリカ合衆国の二大政党双方の並行する歴史が含まれている。その線は、1844年にその始まりを持ち、日曜法において世俗政府の支配を篡奪するに至る背教的プロテスタントの角と密接に関係している。

背教的プロテスタンティズムの預言上の役割には、背教的プロテスタンティズムの象徴としてのハスモン朝の証しが含まれる。背教的プロテスタンティズムの角の系譜の背景には、ラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会の系譜もある。ラオデキアのアドベンチズムの系譜からは、十四万四千人の系譜が派生する。その隠された歴史には、第三の災いのイスラムの系譜もある。ロシアにも系譜があり、国際連合にも系譜があり、もちろん、教皇権にも系譜がある。

もし終わりの時代に生きるベレヤの人々のように、預言を学ぶ者が自ら励むなら、彼は四十節の隠された歴史の中で見出される筋を糧とするだろう。預言を学ぶ者は御使いの手からその書を取り、それを食べる。そして日曜法の最終試練が到来するときには、彼は封印が解かれた真夜中の叫びのメッセージを理解するに至るだけでなく、獣の像がアメリカ合衆国でいかにして形成されたかを完全に理解するようになるだろう。

第七の封印の光は御座から発し、十人の乙女のたとえの文脈では、それは真夜中の叫びのメッセージである。真夜中の叫びのメッセージは、過去の迫害が繰り返される時期に備えるよう、賢い乙女たちを整えるものである。

私たちの過去の歩みをふり返り、現状に至るまでの前進の一步一步をたどってみると、私はこう言えます。神を賛美します！神がなしてこられた御業を見ると、私は驚嘆に満たされ、導き手としてのキリストへの確信が強められます。私たちは将来につい

て恐れるものは何もありません。ただし、主が私たちを導いてこられた道と、これまでの歴史における主の教えを忘れてしまうときは別です。『聖職者への証言』31。

主は2023年7月に始まった試練の過程において、ご自分の民を導いておられる。その導きには、第40節の隠された歴史に関する預言の言葉を解き明かすことも含まれていた。その歴史は、獣の像がアメリカ合衆国においていかに形成されるかを示しており、もちろん、それは終末の出来事の一要素にとどまらず、さらに多くの事柄を明らかにしている。私たちが日曜法という頂点の試練に直面し、過去の迫害が再び繰り返され始めるとき、私たちは「主が私たちを導いてこられた道と、私たちの過去の歴史におけるその教えを忘れない限り、将来を恐れるべきものは何もない」。

日曜法のとおり、アメリカ合衆国で獣の像が形成される期間に、「過去の歴史」が繰り返される。ユダの部族の獅子は最後のメッセージの封印を解き、御自分の民を四十節の隠された歴史へと導いた。そこで主は、預言の言葉を単に理解するだけでなく、最後の危機において御自分の代表となるべき御自分の民の中に数えられるにふさわしい経験を得るという特権と責任についても、彼らに教えた。

その人々の予言的特質の一つは、御座から出る光に導かれて歩む術を知っていることである。その光は四十節の秘められた歴史の光であり、そこには、アメリカ合衆国で獣の像を立てることに関わる宗教的・政治的・社会的・経済的な力学が微に入り細に入り記述されている。この聖なる歴史に関して見いだされるその光は、一行一行を積み重ね、ここに少し、そこに少しという適用を通して生み出され、過去の迫害が再び始まるときの歴史を描写する光なのである。

知識の増大を悟る者こそ賢者であり、知識の増大は獣の像の形成に関わっている。賢者は、その歴史が到来する前に、世界における獣の像の形成の歴史を理解するだろう。イエスはアルファでありオメガとして、常に物事の終わりをその始まりによって示す。

ホワイト姉妹が神の民は御座から出る光の中を歩むと示している箇所は、『Testimonies』第九巻第一章の結論に当たることは注目に値する。この章は十一ページから始まるので、第九巻十一ページ(9・11)から始まり、終わりには日曜法が描写されている。そこでは、獣の像が造られ、十四万四千人が現される時期が描かれている。ただし、その章をそのように見る信仰がある場合に限る。

第九巻の第一節に当たるこの部分は、その旨を明記して始まり、「王の来臨のために」という題を掲げている。これは明らかに、キリストの再臨だけでなく十人の乙女のたとえにも言及しており、というのも節の標題が続いてパウロの言葉を引用しているからである。

#### 第1節 王の到来のために

「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。遅れることはない。」ヘブル人への手紙 10:37

以下の二つの節は省略されているが、この箇所に光を当てている。

もうしばらくすれば、来るべき方が来られ、遅れることはない。義人は信仰によって生きる。しかし、もし退く者があれば、わたしのたましいは彼を喜ばない。しかし、私たちは滅びへと退く者ではなく、たましいの救いに至るように信じる者である。ヘブル人への手紙 10:37-39.

パウロは、忠実で賢いおとめたちが、彼の言う「滅びへと退く者たち」と対比されているハバククに言及していました。ハバククはこう言いました。

見よ、彼の魂は高ぶっており、彼のうちに正しくない。しかし、義人は自分の信仰によって生きる。ハバクク書 2:4.

ハバククの「遅れる時」は十人の乙女の遅れる時であり、また「来られる王」の章は、ヘブライ人への手紙にあるパウロの言葉と結びつけると、この章が十四万四千人の封印の期間において完全に成就し適用されることを示している。その期間は2001年9月11日に始まり、日曜法で終わる。日曜法はラオデキア的アドベンチズムにとって最後の危機であり、十人の乙女のたとえでは、日曜法における品性の現れに当たる。章の最後の段落は日曜法を扱い、この章は2001年9月11日に言及するところから始まっている。

#### 最後の危機

私たちは終わりの時に生きています。急速に成就しつつある時のしるしは、キリストの再臨が間近に迫っていることを告げています。私たちが生きているこの日々は、厳粛にして重大です。神の御霊は徐々に、しかし確実に地上から退きつつあります。神の恵みを軽んじる者たちには、すでに災いと裁きが下っています。陸と海における災害、社会の不安定、戦争の警鐘は、どれも不吉な前兆です。それらは、きわめて重大な出来事が近づいていることを予告しています。

悪の勢力は力を結集し、結束を固めつつある。彼らは最後の危機に備えて力を強めている。まもなく私たちの世界には大きな変化が起こり、最後の動きは迅速に進むだろう。

世界の情勢は、苦難の時代がまさに私たちの目前に迫っていることを示している。日々の新聞には、近い将来の恐るべき紛争の兆候が満ちている。大胆な強盗が頻発し、ストライキは日常茶飯事である。窃盗や殺人は至るところで行われている。悪霊に取り憑かれた者たちが、男も女も幼い子どもたちの命までも奪っている。人々は悪徳に耽溺し、あらゆる種類の悪がはびこっている。

敵は正義を曲げ、人々の心を私利私欲で満たすことに成功した。「正義は遠くに退き、真理は街路に倒れ、公正は入り込むことができない。」イザヤ書59章14節。大都市には、貧困と悲惨のうちに暮らし、食べ物も住まいも衣服もほとんど持たない人々が大勢いる。一方、同じ都市には、心の望む以上のものを持ち、ぜいたくに暮らし、豪華な調度品で飾られた家や身の飾りに金を費やし、さらには一層悪いことに、肉欲の欲望を満たすために、酒やたばこ、そして脳の働きを損ない、精神の均衡を失わせ、魂を卑しめるその他のものにまで浪費する者たちもいる。飢えに苦しむ人々の叫びは神の御前に届いているが、その一方で、あらゆる種類の圧迫と搾取によって、人々は巨万の富を積み上げている。

あるときニューヨーク市にいた私は、夜のさなか、天に向かって階を重ねてそびえ立つ建物を見るよう促された。これらの建物は耐火であると保証され、所有者や建設者の栄光を示すために建てられていた。さらに高く、なお高くとこれらの建物はそびえ、その建造には最も高価な材料が用いられていた。これらの建物の持ち主たちは、「どのようにすれば最もよく神の栄光を現せるのか」と自問してはいなかった。主は彼らの思いの中にはなかった。

私は思った。「ああ、このように自分の財を投じている人々が、神がご覧になるように自分たちの歩みを見ることができたなら！ 彼らは壮麗な建造物を次々と築いているが、宇宙の支配者の御目には、彼らの計画や企てがなんと愚かなことか。彼らは、心と思いのすべての力を尽くして、いかにして神の栄光を現すかを求めてはいない。これこそ人間の第一の務めであるのに、それを見失っているのだ。」

これらのそびえ立つ建物が建てられていくにつれ、所有者たちは、自己の欲を満たし隣人の羨望をかき立てるために使える金を持っていることに、野心に満ちた誇りで喜び勇んだ。彼らがそのように投じた金の多くは、強圧的な取り立てや、貧しい者を虐げて搾り取ることによって得られたものだった。天では、あらゆる商取引が記録されていることを彼らは忘れていた。不当な取引も、あらゆる詐欺行為も、そこに記されている。やがて、人々はその詐欺と傲慢のうちに、主がこれ以上は越えることを許されない一線に達し、ヤハウエの忍耐には限度があることを知るだろう。

次に私の前に現れたのは、火災の警報だった。人々は高くそびえ、耐火だとされている建物を見て、「完全に安全だ」と言った。だがこれらの建物は、まるでタールでできているかのように焼き尽くされた。消防車は破壊を食い止めるために何もできなかった。消防士たちは消火ポンプを操作することができなかった。

私は、主の時が来ても、高慢で野心に満ちた人間の心に何の変化も起こっていなければ、救うに力ある主の御手が滅ぼすにも力あることを、人々は知るだろうと教えられている。地上のいかなる力も神の御手をとどめることはできない。神の律法を顧みず、利己的な野心を追い求めた人間に報いを下すべく神の定められた時に、どのような建築材料を用いて建物を建てても、それらを滅びから守ることはできない。

教育者や政治家の間でさえ、社会の現状の根底にある原因を理解している者は多くない。政権を握る者たちは、道徳的腐敗、貧困、窮乏、犯罪の増加という問題を解決することができない。彼らは、経済活動をより確かな基盤に据えようとむなしく努力している。もし人々が神の言葉の教えにもっと耳を傾けるなら、人々を悩ませる諸問題の解決策を見いだすだろう。

聖書は、キリストの再臨直前の世界の有様を描写している。強奪や搾取によって巨万の富を蓄える者たちについては、次のように記されている。「あなたがたは、終わりの日のために宝をため込んだ。見よ、あなたがたの畑を刈り取った労働者の賃金、すなわちあなたがたが不正に差し止めたその賃金が叫んでいる。刈り取った者たちの叫びは、万軍の主の耳に届いている。あなたがたは地上で快樂にふけり、放縦に過ごし、屠殺の日のように自分の心を肥やした。あなたがたは義人を罪に定め、殺した。彼はあなたがたに抵抗しない。」ヤコブの手紙 5:3-6。

しかし、次々に成就しつつある時のしるしが発している警告を、いったい誰が読み取っているのか。世の人々にはどんな印象を与えているのか。彼らの態度にどんな変化が見られるのか。ノアの時代の住民の態度と少しも変わらない。世の営みや快樂に没頭していた洪水前の人々は、「洪水が来て彼らをことごとくさらって行くまで、知らなかった」。マタイ 24:39. 彼らは天からの警告を与えられていながら、聞こうとはしなかった。そして今日、神の警告の声をまったく顧みることなく、この世は永遠の滅びへと急ぎ進んでいる。

世界は戦争の気運に沸き立っている。ダニエル書第十一章の預言は、ほとんど完全に成就しつつある。まもなく、預言で語られている艱難の出来事が起こる。

「見よ、主は地を空にし、荒れ果てさせ、これを覆し、その住民を散らす……。彼らは律法を犯し、定めを変え、とこしえの契約を破ったからである。それゆえ、のろいが地を食い尽くし、その中に住む者は荒れすたれる……。太鼓の喜びはやみ、喜ぶ者の騒ぎは終わり、琴の楽しみはやむ。」イザヤ書 24:1-8.

「わざわいだ、その日よ！主の日が近い。全能者からの滅びとして、それは来る……。土塊の下で種は腐り、穀倉は荒れ果て、倉は崩れ落ちた。穀物が枯れたからだ。なんと獣はうめくことか。牛の群れは途方に暮れている。牧草がないからだ。まことに、羊の群れも荒れ果てた。」「ぶどうの木は枯れ、いちじくの木は衰えた。ざくろの木も、なつめやしの木も、りんごの木も、いや、野のすべての木々が枯れてしまった。人の子らから喜びが枯れ去ったからである。」ヨエル 1:15-18, 12.

「私の心の奥底が痛む。…私は黙っていられない。ああ、わがたましいよ、ラッパの音、戦いの警報を聞いたからだ。『破壊に次ぐ破壊だ』という叫びが上がっている。全土が荒らされたからだ。」エレミヤ書 4:19, 20

「『私は地を見た。見よ、それは形なく、空虚であった。私は天を見たが、そこには光がなかった。私は山々を見た。見よ、それらは震え、すべての丘は揺れ動いた。私は見た。見よ、人はひとりもおらず、天のすべての鳥は逃げ去っていた。私は見た。見よ、実り豊かな地は荒れ野となり、その中のすべての町々は打ち壊されていた。』 23-26節。」

「ああ、その日は大いなる日で、ひとつとしてそれに比べるものはない。それはまさにヤコブの苦難の時である。しかし、彼はそれから救い出される。」エレミヤ書 30:7

この世のすべての人が、神に背いて敵の側に付いたわけではない。すべての人が不忠実になったわけではない。神に対して真実で忠実な者たちが、わずかながらいる。なぜなら、ヨハネはこう書いているからである。「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を守る者たちがいる。」黙示録14章12節。やがて、神に仕える者と仕えない者との間で、激しい戦いが繰り広げられる。やがて、揺るがされ得るものはすべて揺るがされ、揺るがされないものが残るようになる。

サタンは熱心な聖書研究者である。彼は自分の時間が短いことを知っており、この地における主のみわざをあらゆる面で妨げようとしている。天の栄光と過去の迫害の再来が入り混じるとき、地上に生きる神の民がどのような経験をするかを言い表すことは不可能である。彼らは神の御座から発する光のうちを歩む。御使いたちを通して、天と

地の間には絶え間ない交わりがある。そしてサタンは悪しき天使たちに囲まれ、自らを神であると主張し、できれば選ばれた者たちでさえ惑わそうとして、あらゆる種類の奇跡を行う。神の民は奇跡を行うことに自分たちの安全を見いだすことはない。というのも、行われる奇跡をサタンが模倣するからである。試みられ、練られた神の民は、出エジプト記31章12節から18節に語られているしるしのうちに自らの力を見いだす。彼らは「書いてある」という生ける御言葉の上に立たなければならない。これこそが、彼らが確かに立つことのできる唯一の土台である。神との契約を破った者たちは、その日、神も希望も持たない者となる。

神の礼拝者たちは、第四戒を重んじることによって、ひととき明確に区別される。というのも、それは神の創造の権能のしるしであり、人間の畏敬と礼拝に対する神のご要求を証しするものだからである。悪しき者たちは、創造主の記念を取り壊し、ローマの制度を高く掲げようとする努力によって区別される。この闘争の結末において、全キリスト教界は二つの大きな陣営に分かれる。すなわち、神の戒めとイエスの信仰を守る者たちと、獣とその像を拝み、その刻印を受ける者たちである。たとえ教会と国家が力を合わせ、「小さい者も大きい者も、富む者も貧しい者も、自由人も奴隷も」に獣の刻印を受けさせようと強制しても、神の民はそれを受けない。黙示録 13章16節。パトモスの預言者は、「獣とその像とその刻印とその名の数に打ち勝った者たちが、神の琴を持ってガラスの海の上に立ち」、モーセと小羊の歌を歌っているのを見た。黙示録 15章2節。

神の民には、恐るべき試みと試練が待ち受けている。戦争の精神が、地のこの端からあの端まで、諸国をかき立てている。しかし、やがて来る苦難の時—国が存在して以来かつてなかったほどの苦難の時—のただ中であっても、神に選ばれた民は揺るがずに立ち続ける。サタンとその軍勢は彼らを滅ぼすことはできない。力ある天使たちが彼らを守るからである。『証言』第9巻、11-17。

「神に試され確かめられた民」であり「神の選ばれた民」である十四万四千人は、「過去の迫害」が繰り返されるときも「揺るがずに立つ」。彼らが「歩む」光は第七の封印のメッセージの光であり、それは真夜中の叫びであり、獣の像の形成を識別する光である。